

まちづくり交付金 フォローアップ報告書

宇都宮中央地区

平成23年12月

栃木県宇都宮市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	事業所数	事業所	3,748	3,800	3,834	確定 見込み ●	○	あり なし	3,964	H23年6月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	中心商店街への出店促進や市街地再開発事業の推進などによる商業・業務機能等の強化により、事業所数の増加が図られ、目標を達成することができた。
指標2	従業者数	人	34,780	35,000	37,787	確定 見込み ●	○	あり なし	39,775	H23年6月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	中心商店街への出店促進や市街地再開発事業の推進などによる商業・業務機能等の強化により、従業者数の増加が図られ、目標を達成することができた。
指標3	通行量	人/日	15,679	16,000	10,038	確定 ● 見込み	△	あり ● なし ●		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	近年の経済情勢の変動もあり、減少傾向にあるが、拠点広場整備やレンタル事業等による回遊性向上に取り組んできたことで、事業期間中に一時微増に転じるなど、改善の兆しが現れている。
指標4	居住人口	人	16,186	16,200	15,830	確定 見込み ●	△	あり ● なし	15,930	H22年5月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	居住人口は減少傾向であったが、若年夫婦世帯家賃補助や市街地再開発事業などの都心居住の促進策により、事業期間中に一時微増に転じるなど、減少傾向に歯止めがかかりつつある。
指標5	居住志向の住民の割合	%	10	20	12	確定 ● 見込み	△	あり ● なし ●		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域交流センターや市民生活サポートセンターなどの市民交流の拠点整備や、拠点広場整備など、多様な魅力のあるまちづくりに取り組んだことで、居住志向の割合は微増している。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	鉄道駅乗降者数	人/日	81,502	/	83,650	確定 見込み ●	/	/	78,768	H22年6月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	都心居住の促進や賑わい拠点整備、イベント開催などにより、交流人口が増加し、鉄道利用者数は一時増加に転じたが、少子化による通学者の減少や郊外部の工場閉鎖などにより減少した。
その他の数値指標2	観光ボランティア会員数	人/日	-	/	38	確定 ● 見込み	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	歴史資源として城址公園が整備されたことや、賑わい拠点の整備等により、市民のまちづくりへの意識が高まってきたことで、観光ボランティアとして活動する市民が増えている(H18設立時14名)。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるために 行う方策	事業者数及び従業者数の減少傾向に歯止めがかかった	・市街地再開発事業 ・出店促進事業	依然として景気の低迷等により厳しい状況にあるが、市街地再開発事業や出店促進事業等により、減少傾向に歯止めがかかり、増加に転じている	引き続き、市街地再開発事業や出店促進事業等に取り組み、事業者数及び従業者数の増加に努める
	賑わいを創出するイベントが開催されている	・市街地再開発事業 ・広場活用活性化事業	広場活用活性化事業等により、活発にイベントが開催され、賑わいが創出されている	引き続き、広場活用活性化事業等に取り組み、賑わいが創出されるよう努める。
	快適な歩行者空間を持った道路整備	・都心部道路景観整備事業 ・中心商店街景観整備事業	みちづくり勉強会等を通じ、市民・団体等との協働による道路整備を進めている	みちづくり勉強会などを通じ、市民・団体等との協働による道路整備の継続を図る
	自転車活用の推進	・レンタサイクル事業	おもてなしレンタサイクル事業や自転車の利便性向上施設の整備等により、利用者増となっている	更なる利用者増に向け、引き続き利用者ニーズを考慮した制度運用を進める
	市民の誇りとなる街の顔づくり『宇都宮城址公園モニュメント』と市民の憩いのオアシスとして八幡山公園を整備	『よみがえれ！宇都宮城』市民の会の活動支援	市民、団体等が参加する公園愛護活動や、歴史学習会の開催などの市民活動が活発になった	市民、団体等が参加する公園愛護活動や、歴史学習会の開催などの市民活動を継続的に実施していく
	既存ストック(交流センター等)の利活用促進	・都心部居住推進事業 ・施設利用促進事業	表参道スクエア(地域交流センター)の市民プラザ等においてイベントが活発に行われるなど、地域の交流機能が高まっている。	今後は、都心居住者、従業者、企業などの交流機能として、利用者ニーズを考慮した施設の利便性を高め、地域のコミュニティの維持・向上に取り組む
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	中心商業地再生 中心商業地の空き店舗は依然として増加傾向にあることから、出店促進等に引き続き取り組み、中心商業地の再生を図る必要がある。	・広場活用活性化事業 ・出店等促進事業 ・魅力ある商店街等支援事業	出店等促進事業により、空き店舗の減少に努めているところであるが、景気の低迷等により依然として厳しい状況にある。	平成22年に策定した「中心市街地活性化基本計画」や2期計画に基づき、出店促進、商店街等の魅力創出を図り、官民協働による更なる賑わい創出や中心商業地エリアの魅力を高め集客力の増強を図る。
	来街者の増加 通行量は依然として減少しているため、賑わいの源である来街者の増加、回遊性の向上に取り組む必要がある。	・市街地再開発事業 ・広場活用活性化事業 ・魅力ある商店街等支援事業	広場活用活性化事業等により、中心市街地において、イベントが活発に行われており、来街者を呼び込むしかけづくりがされている。	・既存ストックのさらなる利活用促進を進めることで、幅広い世代の来街者を増加させるとともに、回遊性を高めるため、拠点広場への大型映像装置の設置・活用など、市民や団体等と連携した面的な賑わい創出に取り組む。
	居住人口の増加 住民は賑わいの源となることから、減少に歯止めがかかりつつある居住人口を増加させるため、さらに都心居住の促進を図る必要がある。	・都心部居住推進事業 ・市街地再開発事業	若年夫婦世帯家賃補助事業や市街地再開発事業などの都心居住の促進策により、一定の効果が上がっている。	2期計画において、居住実態(世代、域内外転出入状況など)を踏まえ、生活支援機能の集積による快適なまちなか暮らしの支援など、居住促進の取組を推進する。
	自動車依存からの脱却 低炭素型の環境にやさしいまちづくりを推進するため、多様な交通手段によるアクセス性の向上、自転車も含めた環境負荷の小さな公共交通の利用促進を図り、過度な自動車依存からの脱却を図る。	・レンタサイクル事業 ・自転車利活用促進事業	自転車利活用促進事業により、市民・来街者の自転車利用機会が創出されている。	2期計画において、多様な交通手段によるアクセス性向上を図るとともに、公共交通等の利用促進による環境にやさしいまちづくりに取り組んでいく。
	個性の創出 中心市街地に対する愛着を感じる傾向が低く、まちの没個性化が中心市街地衰退の要因となっていることから、地域の資源を活用した個性の創出を図ることが必要	・出店促進事業 ・広場活用活性化事業 ・魅力ある商店街等支援事業 ・道路(付属施設設置・休憩施設等)事業	若者等による空き店舗活用事業等により、個性のある商店街づくりに取り組むとともに、道路事業(付属施設設置・休憩施設)等を進めるなど、魅力ある中心市街地の形成を図っている。	2期計画において、歴史や自然などの地域資源を活用し、多様な魅力のある、住んでみたいと思えるまちづくりに引き続き取り組んでいく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

うつのみやちゅうおうちく
宇都宮中央地区

とちぎけんうつのみやし
栃木県宇都宮市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	宇都宮市	地区名	宇都宮中央地区	面積	254 ha
計画期間	平成 17	平成 21	年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度		

目標							
<p>大目標 中核都市宇都宮にふさわしい賑わいと高次な都市機能を備えた多様性のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業が活発に交流し、活気ある都心づくり 宇都宮らしい個性と景観のある顔を持った都心づくり 市民が豊かに生活し、交流し合う賑わいのある都心づくり 高度な都市活動を支える都心づくり 							

目標設定の根拠							
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市は、古くは「門前町、城下町」として栄えてきており、本地区はその中心として、商業・業務・居住などの都市施設が集積し各種の機能を担っているとともに、長い歴史の中で文化・伝統を育んできた「街の顔」である。 しかしながら、モータリゼーションの進展、消費者のライフスタイルの多様化、地価高騰、大型店の撤退や大型駐車場を備えた郊外への移転・新規立地などの影響を受け、通行量の減少・販売額の減少・空き店舗の増加など空洞化が進行することに伴い、中心市街地の魅力・活力が低下している。 これまで、シンボルロードや釜川の整備等の都市基盤整備やアーケードの設置への助成、商店街が実施するイベント・若手後継者の人材育成事業などを実施してきたが、魅力低下の流れを変えるほどの十分な効果が見られない状況である。 このため、本地区を含む中心市街地の活性化を図るため、平成11年3月に懇談会を設置し市民の意見を踏まえて、「宇都宮市中心市街地活性化基本計画」を策定し活性化の方向性を示し、更に、平成14年8月に、パブリックコメントや商工会議所などの意見交換を踏まえて、より具体的な中心市街地の姿とための戦略的事業等の大枠を示した「宇都宮都心部グランドデザイン」を策定した。 本地区は、本市の都心部の大部分を占めており、グランドデザインにおいて計画的に整備を図ることとして位置付けられており、各種活性化事業の推進を図っている。 							

課題							
<ul style="list-style-type: none"> 街には市民の誇りとなる顔やシンボルづくりが不可欠であり、歴史や文化を生かしたまちづくりやオアシス空間の創出を進めることが求められており、「門前町」の中心となった荒山神社周辺における、再開発事業に併せて、現在、「城下町」の中心となった宇都宮城を、新しい「街の顔」として、また市民や来街者が歴史を感じながら中心市街地を回遊し賑わいを創出する拠点として、さらに、都市防災の拠点として、史実に基づいた公園に復元する宇都宮城址公園整備事業を周辺整備も含め最重点事業として取り組んでおり、その早期完成が望まれている。 八幡山公園は、中心市街地にあって多くの緑を持つ、市民の憩いのオアシスとして貴重な公園であり、平成21年度に八幡山公園の公園施設である競輪場の再整備が完了することから、競輪場との一体利用を促進することで、さらなる活用を図るためには、園路の整備などにより利用者の動線を考慮した公園の一体性を高めることが必要である。 賑わいの創出のためには、多くの人が地区内を回遊することが必要であるが、通行量は過去20年間に約4割減少している状況にあり、通行量を回復し賑わいを創出するためには、地区内の居住者に来街者も含めた利用者が、買い物や観光などのために地区内を快適・自由に回遊できる歩行空間を持った道路整備が必要である。 大通りを中心とした路線バスやより木目細やかなコミュニティバスに加えて、自転車の活用を促進するなど、市民や来街者のニーズに合わせた、それぞれの交通手段が持つ特性を生かした、交通ネットワークの整備が必要である。 当地区は、市内全域と比較して高齢化が進んでいる地区であり、特に高齢者を含めた誰もが自由に暮らし快適に生活できる、安心安全の街をめざして、地区内を自由に移動できるようにするためのバリアフリー化や、過去20年間に約3割減るなど減少傾向が続いている都心居住者を増加させ、商店街との連携を強化することによって、若者を含めた来街者を増やし、賑わいの創出や地域のコミュニティの復活を図ることが必要である。 本地区は、過去10年間の商品販売額が約4割減少するなど、そのポテンシャルを十分に活用できていない状況にあるが、都市機能の集積力が高く市全体の経済振興の主役となるべき地区であり、その実力に見合った経済活動によって、市全体の経済の底上げを図る牽引役として期待されていることから、更なる商業の活性化などを行うことが必要である。 中心市街地の商店街周辺には、憩いの場やイベントの会場となる広場が必要であるが、本地区の中心商店街周辺にはそうした広場がなく、地元商店街が積極的にイベントを開催し賑わいを創出するためには、中心市街地にふさわしい多目的な広場を整備する必要がある。 情報化、国際化、高齢化や生活様式の多様化などに対応した市民サービスの更なる向上が求められる中、中心市街地においては、その特性を生かした新たな市民サービスや交流機能の充実を図るための地域交流センター等を整備する必要がある。 							
将来ビジョン(中長期)							
<p>《宇都宮都心部グランドデザイン》</p> <p>「賑わい」のあるまちを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 本地区で蓄積された商業・歴史・文化・自然などを生かしたイベントの開催や、アメニティ空間や回遊軸の整備、良質な住環境の整備などを通じて、居住者や来街者の「買う、味わう、学ぶ、遊ぶ、触れ合う、憩い安らぐ、住む、働く」などの満足度を高めることによって、賑わいを創出する。 「多様な魅力」のあるまちを目指す 多くの複合的な都市機能の集積や非日常的な空間を創出することによって、常に新しい「意外性、刺激、新しいビジネスチャンス」などの情報の受発信などにより、多様な魅力のあるまちを目指す。 							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
事業所数	事業所	事業所・企業統計調査による中心市街地活性化計画区域内の事業所数	産業が活発に交流し、活気あるまちを目指すため、平成8年から平成16年の間に、事業所数が平均171(事業所/年)減少している傾向に歯止めをかけ微増させることを目標とする。	3,748	H16	3,800	H21
従業者数	人	事業所・企業統計調査による中心市街地活性化計画区域内の従業者数	多様な産業が集積し、市民・来街者が交流し合う賑わいのあるまちを目指すため、平成8年から平成16年の間に、従業者数が平均2,022(人/年)減少している傾向に歯止めをかけ微増させることを目標とする。	34,780	H16	35,000	H21
通行量	人/日	中心市街地のメインであるアーケード通りで休日観測している自転車・歩行者通行量	市民・来街者が回遊し、賑わいと活気のあるまちを目指すため、平成9年から平成16年の間に、休日の自転車歩行者通行量が平均1,558(人/年)減少している傾向に歯止めをかけ、微増させることを目標とする。	15,679	H16	16,000	H21
居住人口	人	中心市街活性化計画区域内の居住人口	コミュニティを復活し交流し合えるまちを目指すため、平成8年から平成16年の間に、居住人口が平均201(人/年)減少している傾向に歯止めをかけ微増させることを目標とする。	16,186	H16	16,200	H21
居住志向の住民の割合	%	アンケートによる、中心市街地に居住したいと思う住民の割合	多様な魅力のあるまちにすることにより、中心部に居住したいと思う住民の割合を20%にすることを目標とする。	10	H15	20	H21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 本市が古くは二荒山神社の「門前町」として発展してきたことから、最も本市の顔に相応しい当神社周辺において、再開発事業を実施することにより、まちのリニューアルを図るとともに、本地区に多くの市民が集まってイベントなどを開催できるなど、賑わいの拠点となる公共空地を確保する。 「城下町」として発展した時代の中心であった宇都宮城址を、城址公園として甦らせることによって中心市街地の起爆剤となるよう、市民や来街者にとって魅力的なオアシス空間を、歴史的資源を活用して整備するとともに、都市防災の拠点である『一時避難場所』としての機能強化を図る。 市民の貴重なオアシスとなっている八幡山公園に競輪場との一体利用促進のため、園路及び多目的広場を整備する。 二荒山神社から城址公園へ向かう期待感を醸成し、市民や来街者の城址公園への回遊性を高めるために、二荒山神社から城址公園へのアプローチ道路や街並みを整備する。 	方針に合致する主要な事業 高質空間形成施設(宇都宮城址公園施設整備)[基幹事業] 地域創造支援事業(宇都宮城址公園モニュメント整備)[提案事業] 地域生活基盤整備(宇都宮城址公園案内板)[基幹事業] 公園(宇都宮城址公園駐車場)[基幹事業] 公園(八幡山公園)[基幹事業] 道路(市道6号線)[基幹事業] 市街地再開発事業(馬場通り中央地区)[関連事業] 公園整備事業(宇都宮城址公園)[関連事業]
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者なども含め誰もが区内を自由に回遊できるように、道路のバリアフリー化を図り、安心して移動できる歩行者ネットワークを構築する。 循環バスの運行に加えて、手軽な交通手段である自転車の活用を推進するため、レンタサイクル事業や自転車道の整備等を実施し、バスや自転車などそれぞれの特性を組み合わせた交通ネットワークを構築する。 賑わいの創出や地域コミュニティの復活を図るために、都心居住を推進し都心人口の増加を図る。 	道路(市道2号線、市道5号線、市道34号線、市道84号線)[基幹事業] 道路(自転車走行環境の創出)[基幹事業] 道路(交差点部分の段差解消等)[基幹事業] 地域創造支援事業(レンタサイクル事業)[提案事業] 道路(交通バリアフリーに基づく事業)[関連事業] 公営住宅等整備(特優賃、高優賃)[関連事業] 地域創造支援事業(若年夫婦世帯家賃補助)[提案事業] 地域生活基盤整備(公共サインの整備)[基幹事業]
<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の回遊の拠点となりイベントが開催できる多目的な広場を整備し、回遊性の向上を図るとともに中心商店街の魅力向上を図る。 中心市街地の特性を活かした新たな市民サービス、交流機能の充実を図り、賑わいを創出するために地域交流センターと市民の生活をサポートする施設をあわせて整備する。 イベントの開催・ライトアップなどのイメージアップ施策の実施や、商店街の充実のための新規開業支援など、本地区の商業を活性化するための施策を実施する。 都心地区地域住民の地域特性を生かした地域活動、交流の拠点施設として地域コミュニティセンターを整備する。 	地域生活基盤施設(多目的広場)[基幹事業] 高質空間形成施設(カスケード)[基幹事業] 高次都市施設(地域交流センター)[基幹事業] 地域創造支援事業(市民生活サポートセンター)[提案事業] 地域創造支援事業(新規開業支援育成(チャレンジショップ等))[提案事業] 地域創造支援事業(中心商店街の活性化(空き店舗対策等))[提案事業] 商業祭実施支援事業[関連事業] 高次都市施設(地域コミュニティセンター)[基幹事業]
<p>その他</p>	

